令和６年度 第２回滑川市ＤＸ懇話会 議事概要

日時：令和７年３月 26 日（水）18：00～19：45
場所：滑川市役所本館３階大会議室

【委員】

役　職	氏　名	備　考
滑川市自治会連合会 会長	松　井　正　嗣	
滑川市社会福祉協議会 常務理事	斎　木　秀　則	
滑川市介護支援専門員協会　会長	篠　崎　美　春	
滑川市民間保育連盟　理事	柳　溪　暁　秀	
滑川商工会議所 専務理事	杉　田　隆　之	
滑川市観光協会 会長	早　川　祐　一	欠席
滑川市営農組合連絡協議会　会長	石　倉　　猛	
滑川市ＰＴＡ連合会　会長	高　橋　　悟	
株式会社ＴＡＭ 専務取締役	稲　場　康　晴	
富山大学名誉教授	山　西　潤　一	
市民公募委員	大　上　卓　男	
市民公募委員	伊　藤　史　織	欠席

滑川市最高デジタル責任者（ＣＤＯ）	柿　沢　昌　宏	会長（副市長）
滑川市最高デジタル責任者（ＣＤＯ）補佐官	岩　本　健　嗣	富山県立大学情報工学部　教授 （オンライン）

【事務局】

教育長	上　田　良　美	
総務部長	石　川　久　勝	
産業民生部長	黒　川　茂　樹	
建設部長	岩　城　義　隆	
健康福祉部長	石　川　美　香	
教育委員会事務局長	上　田　博　之	
ＤＸ推進課長	松　山　哲　也	
企画政策課長	奥　村　勝　俊	
総務課長	高　倉　晋　二	
財政課長	長　崎　一　敬	
ＤＸ推進課	３名	

【次第】

１　開　会
２　会長あいさつ
３　説明
　　令和７年度の滑川市におけるＤＸの取組状況について
　　デジタル田園都市国家構想交付金の活用状況について
４　意見交換
５　閉会

会議の概要

□会長あいさつ
□資料説明（資料１～２）
□説明事項等に対する意見交換

委員からのご意見をテーマ毎に分類してとりまとめいたしました。
実際の発言順とは異なります。

〇市役所内のＤＸへの取り組みについて
＜意見＞
・ノーコードツールの導入について、属人化による弊害が懸念される
・ＤＸの取り組みにおいては、新しいものを増やすだけでなく、やめるものについても検討が必要。導入効果を数値化して、検証をおこなってほしい。
・生成ＡＩについての具体的な活用事例は？
・今後はＡＩを正しく活用できるようリテラシーの向上が必要
・職員が早く帰れるよう、幸せになるためのＤＸ施策を進めてほしい

＜事務局から＞
・属人化の懸念については、各職員が利用できるよう各種研修の実施と、引き継ぎの運用ルールを策定する
・生成ＡＩについて、昨年度の実証では文章や挨拶文の作成など簡易的な事例が多い

＜岩本ＣＤＯ補佐官から＞
　それぞれの指摘については、仰るとおりである。市で正しく活用できるよう、職員のリテラシー教育が必要になる。生成ＡＩについては、現在は簡易的な用途でしか利用していないようだが、政策立案や議会答弁等に利用する際は、注意が必要である。ただし、今後はそういった用途でも使うべきだと考えている。

〇デジタルデバイド、誰一人取り残さない情報伝達事業について

＜意見＞

・近年はスマホを所有する高齢者も増えているが、使いこなせていない人も多く、スマホ教室への参加が難しい人もいる。介護保険事業所などでスマホ教室を開催してはどうか？

・スマホ教室運営側の印象として、高齢者からスマホの画面が小さいという意見が多く、タブレットの方が適していると考える。その点で、誰一人取り残さない情報伝達事業には期待している。

・農業従事者は高齢者が多く、スマホを使いこなせない人が多い。農業分野では、ドローンや電子水門などの様々なＤＸツールが存在しているが、それを使いこなせていない現状がある。

・誰一人取り残さない情報伝達事業について、自治会との連携はどうなるのか

＜事務局から＞

・来年度デジタルサポート分野の地域おこし協力隊を任用することとしており、地域と密に連携をとりながら、現状では拾い切れていないニーズに応えるよう、スマホ教室などの取り組みを進めていきたい

・誰一人取り残さない情報伝達事業については、開始は 10 月ごろを予定している。単にタブレットを配るだけでは効果が薄いので、町内会や民生委員と連携しながら、対象者の選定などをおこなっていきたい。自治会連合会からも協力を頂きたい。

〇産業界のＤＸ、イノベーション推進事業について

＜意見＞

・市内中小企業への伴走支援について、事業化に感謝する。中小企業、個人事業主ではＤＸに対する温度差が大きく、断る事業者も多かったが、粘り強く事業を進めてもらった。

・3/21 の説明会では多くの企業が参加し、成功事例について説明が行われた。伴走支援の結果、多くの効果が合ったと思う。

・自分たちでＡＩを活用してＤＸを進めていけるよう、ＡＩの使い方を伴走支援してはどうか

＜事務局から＞

・市としては、企業が元気なまちを作りたいと考えている。単に利益を出すだけではなく、持続可能な企業になってほしい。最初はとりかかりやすい所から伴走支援を進めていき、将来的には地元人材が市内企業のＤＸを進めることができるような地域を目指していく。来年度からは金融機関の協力も得て、産・官・金で一体となって事業を進めていく。

〇デマンド交通事業について

＜意見＞

・デマンド交通事業について、大きな期待をしているところである。実証におけるルート選定や料金など、現在の検討状況は？

＜事務局から＞

・現状は、来年度からの実証にむけ、先進事例を収集しているところである。料金やルート選定など、事例を参考にしつつ、当市に適した形を考えているところ。

・デマンド交通事業については、市民にとっていいものにしたいと考えている。積極的に説明会を開催するなどして、市民との対話を大事にしていく。

〇市公式ＬＩＮＥの活用について

＜意見＞

・今実際に市公式ＬＩＮＥと友達になってみた。メニューもわかりやすく、便利でよい取り組みだと思う。ただ、ＬＩＮＥの存在がまだまだ市民に浸透していない。他の事業も含め、より一層の宣伝が必要

・徘徊者の捜索について、現状はメールだが、ＬＩＮＥを活用してはどうか？

〇介護事業所との情報連携について

＜意見＞

・ＬｏＧｏチャットを活用した市と介護事業所との情報連携については、個人情報の規制が課題となっている。取り扱い可能な情報について線引きをはっきりしてほしい。今後はデイサービスなどにも広げていきたい。

＜事務局＞

・取り扱い可能な情報について、明確化を行う予定。

〇ラウンドテーブル

＜意見＞

・ラウンドテーブルについて、令和６年度の開催状況は。また、ラウンドテーブルから予算化した事業はあるのか。

＜事務局＞

・令和６年度９月に教育分野でのラウンドテーブルを開催した。そこでの意見から、再度アンケート等の聞き取りを行い、統合型校務支援システムの導入につながった。

〇全体総括

＜岩本ＣＤＯ補佐官から＞

貴重な意見をたくさん頂いた。滑川市は、以前は非常にアナログであった。しかし後発団体の優位性もあり、各地の成功事例をもとに良い形でＤＸを進めてきた背景がある。

・デマンド交通について
市民のみなさまからアイデアや意見を募っていく。新しい公共交通としてのありかたを、しっかりと議論を進めていく。

・情報連携
意見のとおり、個人情報の取り扱いルールの明確化は必要。

・ＤＸの目的
「早く家に帰るためのＤＸ」という意見はごもっとも。部署によっては、改善により早期帰宅が実現できているところもある。テレワークなど新しい働き方も含め、働きやすい環境整備に引き続き取り組んでいく。